



ボランティアセンターだより

2019年11月 No. 132号

行き先は、被災府県



「令和元年台風19号災害義援金」募集

10月12日から13日にかけて北上した台風19号により、東日本において広域に記録的な大雨となり、河川の堤防決壊等による洪水や土砂崩れ等の災害が各地で発生しました。この災害により亡くなられた方のご冥福を祈るとともに、被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

共同募金会では、被災された方々の支援のため義援金を募集いたします。受け付けた義援金は、義援金募集を行っている都県の被災状況に応じた按分率に基づき各都県に送金し、被災者へ配分されます。

受付期間：令和元年10月16日（水）～12月30日（月）

被災状況に応じて、期間を延長する場合があります

受付：南あわじ市社協事務所窓口

※下記の口座へのお振込も可能です



金融機関	支店名	口座番号	口座名義
ゆうちょ銀行	—	00130-0-421020	中央共同募金会令和元年台風第19号災害義援金
三井住友銀行	東京公務部	普通 0162529	(福)中央共同募金会 災害義援金口
りそな銀行	東京公務部	普通 0126781	(福)中央共同募金会

令和元年台風19号災害「大規模災害ボランティア活動応援プロジェクト」

台風19号災害を対象に被災者の生活の早期復旧のため、被災地でボランティア活動を行う団体・グループを支援することにより、災害ボランティアが活動しやすい環境づくりを推進します。

対象地域

台風19号により被災された長野県内の各市町

対象者

以下の①～④の条件をすべて満たす者

- ① 兵庫県内に拠点を置く5人以上の団体・グループ
- ② 代表者の年齢は20歳以上であること ※年齢は申請時点
- ③ 宗教活動、政治活動、営利活動を目的とする団体・グループでないこと
- ④ 反社会的活動を行う団体・グループでないこと

対象となる活動

復旧期の被災者支援活動（被災者宅のがれき撤去、泥かき、避難所運営支援等）

助成額

1団体・グループあたり上限20万円

助成対象経費

上記活動を行うために要する交通費および宿泊費

適応期間

令和元年10月28日（月）～令和2年3月31日（火）



【問い合わせ先】

ひょうごボランティアプラザ
TEL：078-360-8845

ーおもいやりポイント制度説明会ー

日時：11月19日（火）14時～

場所：太陽の家（八木養宜上1018）

（同時開催）施設見学&体験 など

（配膳・下膳の補助）

発行 南あわじ市社会福祉協議会 ボランティアセンター
〒656-0122 南あわじ市広田広田1064
TEL：44-3007 FAX：44-3037
MAIL：info@minamiawaji-shakyo.or.jp



生活支援コーディネーターだより

鈴虫のお父さんのお話



今年の夏は酷暑でした。長期予報では涼しいはずだったのですが…。秋の気配もゆっくりとしており、二度と秋にはならないんじゃないかしら？と心配しました。そんな折、秋の虫たちは涼を与えてくれました。社協では特に鈴虫が、リーンリーンと涼しげな羽色を響かせて暑さでぐてぐての体に涼感を添えてくれました。

ところで、この鈴虫ですが、里村さんというボランティアの方が飼い始めた鈴虫が毎年孵化し、たくさんたくさん育ち、数年前から社協で鈴虫たちの里親を募集し始めました。社協のほかにも各施設や保育所などにも届けられ、みなさんに喜んでいただいているようです。今年も里親募集をボランティアセンターだよりに載せたり、集いの場や会合などで募ったり、また、神戸新聞で掲載していただき、おかげ様で大きな反響を得ました。「鈴虫がもらえると聞いたんですが…」「孫が来るんで…」「隣の家の子どもに頼まれて取りに来たんやけど」「大阪に帰るんだけど、帰るまで大丈夫かな」と鈴虫を求めて市外の方を含め、たくさんの里親さんが社協を訪れてくださり、それぞれ新しい親元へと移っていきました。鈴虫はメスとオスは形状が違い、メスは産卵管があり見分けやすい、オスしか鳴かない、秋が深まるとメスはオスを食べてしまい産卵をする、など新しい里親さんたちと一緒に勉強をさせていただきました。今年は特に「産卵した後のケースはどうするの？」の疑問も出てきて、またまた、鈴虫のスペシャリストの里村さんに伺いました。

里村さんによると『ケースの中の土やおがくずの中には、卵を生みつけている可能性があるの、上のごみを取り去り、軽く霧吹きでしめらせ、そっと冬を越し、ひたすら春を待つのみ。』とのこと。来年もたくさんの鈴虫が孵化するといいですね！

鈴虫が縁でお話したり、「おじちゃんもらってきて！」と近くの子どもにせがまれ取りに来てくれるやさしい近所のおじちゃんがいたり、夏休みに帰省する子ども家族のお土産になったり、鈴虫で世代間交流が生まれました。もしも、世の中にノーベル鈴虫賞があるならば、里村さんを推薦したいと思います。

まちの見守り隊



地域には市役所や社会福祉協議会、社会福祉法人などの福祉施設だけではなく、まちの様々なところで普段の生活を営む中で、自然に見守りができていることを発見しました。まちの喫茶店やスポーツ施設、お店などです。「いつも来てくれる人が今日は来ない。また、長らく姿を見せないのて気になって電話をする」「いつも来てくれるおじいちゃん、なんか今日は様子が違うので気になって家に着くまで見守った」など、地域の人にはわからないけど、そっと見守ってくださる温かい“目”がありました。また、地域の移動スーパーや個人宅配業者の方々も地域高齢者を見守ってくれています。日常の生活の中で何気ない見守り。地域の大切な資源です。これからもよろしくお願いします。

